

# 香葉



1980

NO. 9

目 次

グ ラ ビ ア ..... 1  
老いて感謝を ..... 2  
Can a dream come true? Mine did. .... 3  
「香 報 室」 ..... 4  
覚え書（九）——女専・短大小史 ..... 9  
コーヨースポットライト（消息） ..... 12  
「展 望」 ..... 14  
「こんにちは」 ..... 18  
五十四年度総会報告 ..... 20  
「香葉」10号特別記念号について ..... 21  
合同同窓会報告 ..... 21  
賛助金をご寄付下さった方へのお礼とお願い ..... 23  
編 集 後 記 ..... 24

表紙 ..... 関 頼 武  
カット ..... 青木 千恵子  
(短英27年度)





香葉会の部屋（1号館504号室）



短大祭（54. 11. 3）

# 老いて感謝を

柳生 直行



私が相川高秋先生のお誘いを受けて本学院短大に奉職させていただいたのは昭和二十七年、三十二歳のときでした。あれから二十八年という歳月が、それこそあつというまに過ぎてしまい、この三月で私は六十歳になります。五十九から六十への移り変りは、たとえば三十九から四十、四十九から五十へのそれとくらべて、なんとなく重い感じがいたします。要するに、「老人」や「高齢者」の仲間に入れられるのがいやなのでしょう。

去る十二月の二日に兵藤先生の還暦祝いが箱根でおこなわれました。彼は私より三カ月ばかり先輩なんです。その席で、私はこう申しました。「われらの敬愛する兵藤先生が還暦を迎えられたことは、まことにおめでたいことでありまして、なんてだれも思っっちゃいないね。われわれはただ兵藤さんをダシにして、久しぶりに騒ぐためにここへ来ただけのこと……」

ところが、それから一週間ほどして、私の人生観はすっかり変わってしまいました。（注、私の人生観はしゅちゅう変るので、別におどろくには当たらない）。それは、聖書協会総主事の新見宏さんが急逝したことを、小玉敏子先生から聞かされたからです。彼は私の古い友人で、去る十月へボン来日百年記念式で会ったばかりだっ

たのです。フィリピンから成田に着いて、ちょっと気分が悪いからとお宅に電話して、成田のホテルに泊り、そして次の朝には冷くなつていと申します。時に五十六歳。フィリピンの会議ではすばらしい説教をして、列席者に深い感銘を与えたということです。

なぜあんな立派な人が五十六歳の若さで死ななければならなかったのか。それに引き替え、なぜ私のような凡庸な人間が六十まで生かされているのか。そう、私は神様のお恵みによって今まで生かされてきたのだ。だから、還暦は神様からの私へのありがたい贈物のだ。つまり、還暦を迎えるということは、ほんとうにおめでたいことなのだ。老人の仲間入りするのがいやだとは、何たる傲慢か……という訳で、こんど兵藤さんに会ったら謝まらなければならな

いと思っています。

昨年ノーベル平和賞を受賞したカルカッタのマザー・テレサについて書かれた本に *Something Beautiful for God* というのがあります。「神様のために何か美しいことを」——これが聖女テレサの人生のモットーだそうです。私はこの美しい言葉に感動して、自分なりに、神様のために何か美しいことを、と考えているのですが、そこが凡夫の悲しさ、考えるだけでいつこう実践が伴いません。が、本卦帰りを機に、長年お世話になった関東学院のためにできるかぎり御奉仕したいと思っています。（こんなことを書くと、あとでかならず文学部の若い連中から言われるんです、「先生、あの文章カッコよすぎるよ」）。

## Can a dream come true? Mine did

When I was a little girl I decided I wanted to become a missionary. But my parents decided that I would become a teacher because my mother, and all of my aunts, and some of my uncles taught school.

My childhood was a normal one. I attended school in a small town in Pennsylvania. I had loving, caring, sharing parents who taught my two brothers, and my sister, and me that through faith and obedience to God's will all things are possible. To reinforce their teaching we all attended church and Sunday School where dedicated Christian teachers taught us the principals of Christian living by precept and example. It was the training of my parents and the lives of these Sunday School teachers who were instrumental in my opening my heart and letting God shower me with His overpowering love. I was then baptized and became an active member of the church.

More than ever I wanted to become a missionary. But God did not think it was the opportune time so I went to Case Western Reserve University in Cleveland, Ohio. When I graduated I began teaching school. I taught school for a time and then became a reading consultant. In the United States a reading consultant goes to three different schools and helps teachers to become better teachers of reading. A reading consultant also holds meetings with the parents of children and teaches them how to help their children become better readers. After that I became principal of one of the elementary schools. This was a large school with one thousand one hundred students and forty-five teachers. I remained principal until I retired.

Did I lose my dream of becoming a missionary? No, it was still in my mind. By this time I had married and had one son and four grandsons. My husband died and God spoke to my heart and told me it was now time for my dream to come true.

When I received a letter from Mr. Richard Beers of the Board of International Ministries of the American Baptist Churches offering me the opportunity to serve the Lord in Japan I hastily accepted after receiving the blessings of my family, my pastor, my church, and my friends I wended my way to Japan.

I am very fortunate to be at Kanto Gakuin Women's College. I am impressed with the dedication of the faculty, the studiousness, and deportment of the students, and the cleanliness of the buildings. Even though I had been in Japan previously this stay is much more gratifying and meaningful.

Yes, my dream has come true. I am in Japan doing what I have longed to do. As the Bible teaches, "For everything there is a season" and "Wait on Me", says God,

SALLIE T. BLACKWELL



サリー・ブラックウェル先生は、昭和五十四年十月から special service worker (特別短期教師) として英文科で教えていらつしやいます。かつてはアメリカの公立学校の校長先生をされたこともあり、御高齢にもかかわらず、エネルギーなキャリアウーマンぶりを発揮されています。頼もしく、またユーモアのおじょうずな先生を、皆様にも御紹介したく、先生にお願いして書いていただきました。

# 香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿を随時お送り頂きたくお願いいたします。尚、今回は昨年の総会出欠通知から無断で転載いたしました。紙面を借りてお礼申し上げます。

いけ花、英会話で良い友人がたくさんいます。お蔭で米國旅行も、専らバス旅行、お安くたくさん観光できました。英語を勉強しておいてつくづく良かったと思いました。

\* 並木高代（浅場）24英専\*

真赤なバラが今盛りと咲き、そして、水色の忘れな草がかれんに咲いております我が家です。最近の私は、去年の十月にママさんテニスクラブに入り、もっか一生懸命にラケットを振っているのです。試合では三位になり、トロフィをいただいたりしてはりきっております。若さを保つには、まず、運動からですね。

\* 中沢富士子（斉藤）25高英\*

神奈川県立鶴見高等職業訓練校測量科に本年4月入校、一生徒です。同級生25名中最高年62歳です。一年間みっちり仕込まれて測量士補、そして、土地家屋調査士を目標にして居ります。毎日が日曜日の生活から本年高卒の連中等とわいわいやって居り、来年の今頃は何をして居ることやら、では又。

\* 鈴木利治 28英II\*

自分の子供と一緒に、もう一度英語を楽し

もうと始めたラボ・パーティーも、もう十年になり子供は大学二年、高校二年になりました。今夏は、イリノイ州より十五歳のゲグラスを受入れ、一ヶ月楽しい日本の夏休みを過ごさせるためのプラン作りに頭を悩ませています。海外に出かけた子供たちも二十名となり、今夏は、コロラド州、マサチューセッツ州に中二女子がそれぞれ出かけます。どんな生活をしてくるか帰国後の彼女たちの新鮮な話を期待しています。

\* 栗田美智子（渋谷）30英\*

今年、次女が短大家政科へ入学し、親子二代、学院へお世話になる事になりました。入学式にも出席させて頂きました。子供が、自分達の過ごしたあの懐かしい青春時代の年代となり、本当に感無量です。

\* 土屋幸枝（中村）30英\*

昨年十二月末、住友重工業株式会社を停年退職、半年遊んで、六月一日より浦賀駅の見える横須賀プラント工業へ就職しました。今まで船舶設計ばかりでしたが、こは機械設計で正に丘に上った河童の如くとまどう昨今です。光畑先生におかれながら、十二夜。

を練習した頃が懐しく思い出されます。柳生先生の「クレメンタイン」のソロがまだ耳に残る謝恩会が脳裏をかすめます。諸先生の御発展を祈りつつ……\*生亀喜久松 33英II\*

四年制の大学を卒業し、就職した後、「学を楽しむ者にしかず」という論語の一節を連想しながら、夜間の英文科に入学しました。私学は初めての経験でしたが、自由主義というか、教師も学生ものびのびとしたところがあり楽しい二年間でした。今まで通った学校の中では一番短い期間でしたが、一番強く、アルマ・マータ（母校）という印象が残っています。  
\*齋田賢造 35英II\*

学校を離れてみて初めて、ああ、学生っていいなあと思ひ、そして英語と離れて、もっと勉強したいなあ、などと思ひ、人間で勝手ですね。私は、もう一度学生になりたい、この9月から、サンフランシスコのミルズ女子大学に留学します。幸せ。

\*小島淳子 40英\*

今年の七月、一足先に五年間の予定で、ニューヨークへ赴任した主人のもとへ、飛んで

## “香葉会のつどい”のお知らせ

皆様 お元気ですか。

今年は短大が設立されて30周年、香葉会も短大独自の同窓会として結成されて10年目になりますので、特別のプログラムとして上田敏晶先生に講演をお願いすることになりました。

年に一度の卒業生のためのお集りですので是非お出かけになってお楽しみ下さい。

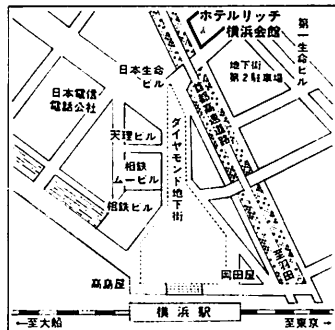
日時 6月29日(日) 13:30より

場所 ホテルリッチ横浜会館  
横浜市神奈川区鶴屋町3-32  
045-312-2112(代表)

会費 2,000円

演題 「愛すること、愛されること」

講師 上田敏晶先生 短大教授(心理学)  
経営コンサルタント



尚、準備の都合上、同封の返信用ハガキに出欠、近況をお書き込みの上、6月23日迄にお返事下さい。

行きます。短大の時は、本来の英文科より、自称体育科卒（体連テニス）に熱が入り、卒業後は、食いしん坊がこうじて調理士学校へ通ったり、地唄に夢中になったりしましたが、これからは、毎日英語が目あたりに迫って来ます。下手物好きな私は、アメリカで何が食べられるか興味津々です。

\* 蓮沼真弓（斉藤） 43英\*

朝から晩まで飛び廻っております。人の倍働けば、人の倍生きたことになる。

「赤子の心になれば、その人は神を見ること出来る」なかなかありませんな！」

長女は25歳小学校教員、独身を楽しんでいる様子困ったもの。休みはガールスカウトのリーダーとして家に居らず、休暇は外国旅行かスキー、いやはやマイツタナ……

次女は今年、又、神戸大の養護教諭特訓科に入學（22歳）姉の真似されては一大事と思っております。心配だな……

女房殿は貰うく充分、娘の嫁入仕度にと和教教室にせつせこせ……

\* 羽田高義 36英II\*

結婚して四年、一歳二カ月になる娘があり

ます。週二日、母に子供を預けて、音楽教室でエレクトーンを教えておりますが、結婚し子供を持ちながらの仕事がいかにも大変かというのを、多少なりとも味わっております。もう少し女性が働きやすい社会になれば良いのですが……

最近ヨチヨチ歩きをはじめた娘の後ろを追いかけながら、学生時代、もう少し熱心に勉強しておけばよかったと、後悔しつつ、新しいキャンパスで勉強されている方々をうらやましく思います。

学報にありました、宮川先生の「計画は多くの人が立てるが、差はそれを実行するかしないかである」の言葉、強く自分に言い聞かせております。 \* 熊谷典子（東） 48英\*

最近やつと会社に慣れた感じであるが、今度は疲労感が増してきた。新入社員は、有休、ポナナス共になし。つらいです。タレントに会ってもサインをもらったりしては、上司ににらまれるので、何のためにマスコミ関係に入ったかわからない感じ。忙しい時と暇な時の差が激しいので困惑しています。お金と自由が欲しいのが今の実感です。

\* 西ノ宮典子 54英\*

卒業して10周年。無事である事を感謝して今や30歳。子供が3人おりました……と書きたいところですが残念ながら独身。

去年の12月8日にカトリックの洗礼を受けました。8年間もプロテスタントの学校に学び、信仰の根を養われたものの不思議なものです。

今テニスを始めました。20歳の頃のウエイトを20kgを上回るブヨブヨさ。コーチからはいやな顔されて、それでもうまくなりたいと日夜頭をひねって素振りの練習。青春PAR T2をまさに生きております。

\* 齋藤理恵子 44国\*

52年53年と出産し、毎日、年子の世話で明け暮れています。その忙しい中を家業の総合塾で中1と小学生の英語を教えております。教室の掃除、帳簿つけ、教材の準備におわれっておりますが、時々魚つりを覚え、暇をみつけては、主人、子供をひきつれて出掛けます。30cm級のふな、鯉がググツとつれるとそれは気持ちのよいものですよ。スカツとします。

\* 石井孝江（酒井） 46国\*

学報・香葉会ニュースありがとうございま



した。懐しい先生方のお顔を拝見して、楽しく、若く輝いていた学生時代を思い起しておりました。現在は主婦と会社勤めとの2足のワラジをはき続けて3年目となりました。そのワラジの方も少々くたびれてきたらしく、近頃は専業主婦への転向の欲望で一杯です。

多分、退屈だろうなあと思っはいるのですが……。

\*萩原元子(大川)48国\*

念願かない、関東学院大学文学部社会学科二年次に編入、兵藤正之助先生の近代・現代日本文学研究のセミに聴講生として入れていただいて、大変はりきっております。社会学を勉強したくて編入したにもかかわらず、今は文学が面白くて、それどころではありません。しかし、本当のところは、現代科学である社会学と、文学と、そして、宗教の間で悩みながら、ユラユラとしているのですが……

\*長鳴久美子 54国\*

景色の良い田舎みたいな所ですが、マンモス大学、東海大学があるので活気づいて来ましたが、相変わらず、畑作りにこつてます。手がかかり、なかなか大変ですが、面白いものです。

\*坂井満代(大橋)28家\*

香葉会の「つどい」がお守りの内にありますように祈ります。長い間病院生活中皆様から励ましのお便りを沢山いただきありがとうございます。香葉ニュースのお陰です、感謝/退院後、元気に生活しております。

\*西村恵子(菅野)30家\*

立派なキャンパスができて嬉しく思っています。二十四年前、幼児教育科があれば専攻できていたのに、あの当時は英文科と家政科しかありませんでした。あの頃の夢が捨て切れず、人生半ばを過ぎた今、保母試験に挑戦しようとかんばっています。本当ならもう一度関東へ行って立派な校舎で勉強したいのですが、長男が大学生、次男が今受験生なので私も家でがんばるしかありません。

\*西龍京子(岡田)32家\*

現在硝子工場で事務をしています。私の所属している課は、男性80数名、女性は私一人だけというところです。海外からの研修生、実習生が多く、今も韓国から17名一ヶ月の予定で来日しています。私が入社してからのこの二年間に、インドネシア、ポーランド、ルーマニア、メキシコ、ビルマ、中国、アメリカ

等各国の人達がきていて、中には半年以上もいる人達もいます。学生時代に英語を毛嫌いして勉強しなかったのが今苦勞しています。来春には、私も結婚する予定ですが、富和先生はどうしていらっしやるでしょうか。

\*佐々木まゆみ 52家\*

お世話になりました鳥越先生のお言葉とても懐かしく読ませて頂きました。短大勤務を含めまして関東には四年間お世話になりましたが、今は少々早すぎたかしら?と思われる主婦です。八月に出産をひかえ身動きのできない体にイライラしてすすけれど、何とも言えない幸せな気持ちがあるのは確かです。キャンパスも尚一層立派になられたこととか。落ちついた際には是非訪れてみたいと思っております。

\*稲益朱見(和泉)52家\*

新宿まで、電車で揺られてかよっています。数字に弱い私が経理部に配属になり、毎日数字と戦っています。

\*滝野光代 54家\*

卒業後は福島へ戻って、勉強したものは全然ちがう道を歩んでいます。勉強とは社会に出てからするものですね。歯科の講習会に

出席して少しずつ身につけようと思っ  
ています。自由になる時間が少ない事  
が不満です。でもいつもなつかしく  
思うのは短大時代の2年間です。で  
きればもう一度勉強してみたいと思  
います。

\*鈴木節子 52食\*

栄養士として三年目を迎え、何か  
保育園の栄養士としての仕事を自  
分で勉強してみたいと思、今、離  
乳食についてグループや自分の経  
験から取り組んでいます。なかなか  
毎日の仕事におわれ、思うように  
進んでいません。去年の十月から  
新しく開園した桜山保育園も兼務  
ということ、両園あわせ三百人  
以上の子供の健康を守る責任ある  
仕事に意欲をもちやっています。又、  
最近多い自閉症の子供や、他の障  
害のある子供達の為にもグループ  
で研究をしていきたいと思ってい  
ます。その反面中学時代から好き  
でつづけているバレエホールもが  
んばっています。皆様方の健康を  
お祈り致します。

\*小沢まさみ 52食\*

お送りいただいた香葉誌大変嬉し  
く拝見致しました。覚え書きに記  
された歴史により、在学中親しん  
だ今はないルツ館の事等々知る事  
が出来、編集にあたられた方々の  
御努力に

感謝致します。私も三年間勤めた  
津久井幼稚園を三月に退職、四月  
から自宅に近いひこばえ幼稚園に  
移りました。通勤時間がかからな  
くなったので、少々時間をもて  
余しきみです。子供達と過す毎日  
はいそがしく、とても素暗らしい  
ものです。これからは与えられた  
時間を大切に、初心に返り勉強  
して行きたいと思、皆様のご健康  
をお祈り致します。

\*波田野育子 52幼\*

卒業して一年間、障害者福祉セ  
ンターに勤め、障害児の教育(?)  
をしました。何もわからず、自分の  
行動が良いことか、悪いことか  
さえわからず、一年がたつてしま  
い、子ども達に、笑顔とカーネー  
ションの花束をもらって退職しま  
した。現在、私のオナカの中に、  
七カ月になる赤ちゃんがいます。  
さあ、今度は、新しくママとして、  
覚えることがたくさんありそう。  
がんばらなくっちゃ!

鈴木歳子(木部) 53幼\*

一年なんて、あつという間……。今  
年は担任となり、一クラスを任せ  
られて戦いの日々を送っています。  
毎日が楽しくてしょうがない。大  
きな病氣もせず、がんばってお  
りま

\*佐々木美保子 53幼\*

早いもので、卒業してから二ヶ月  
たちました。毎日、幼い子供たち  
と楽しく過ごしています。私のも  
っているクラスは三歳児で私とも  
う一人の先生と二人でやっています。  
入園したての頃は、本当によく泣  
いて困りましたが、今では、元氣  
よく登園してきてくれてだんだん  
悪さをしはじめています。

学生時代に実習に行った園なので、  
あまり心配はありませんでしたが、  
やはり一番年下ということでも  
かなり気も遣いましたが、関東の  
先輩が二人もいるので心強かつた  
です。今では、すっかり幼稚園に  
なれて先生同士の関係もうまく  
いっています。また、短大へは行  
きたいと思、お目にかかる日  
を楽しみに……

\*竹川弘美 54幼\*

卒業して二年目を迎えています。  
先日久しぶりに学校を訪れ、素  
暗らしいキャンパスに驚かされ  
ました。今の学生がうらやましい  
です。あまりの変化に、本当に  
母校かしらと考えてしまいます。  
子供といっしょになって大  
さわぎしています。

\*井上裕子 53幼\*

# 覚え書 (九)

— 女専・短大小史 —

上市 二郎

室の本校地へ全学科（英文科・国文科・家政科・幼児教育科）がまとまり女子の学園としての生活が始って早くも一周年を迎えようとしている。昭和五十五年という年は香葉会が燦葉会より分離独立して十年目、会誌「香葉」が創刊されたのが同じ十年前の昭和四十五年である。

学制改革により女子専門学校が短期大学に昇格したのが昭和二十五年、本年はその三十二年を迎えるという意義ある年である。

前回は昭和二十八年五月の学友会主催の日帰り旅行途であったが、前回の記事中にルツ寮の経緯を述べた箇所がある。ルツ寮としてまたルツ館として使用した学生時代の思い出の建物ですので、一言次のことをお知らせしておきましょう。名称は勿論旧約聖書のルツ記より採ったものですが、最近「ルツとはへブル語で、名詞では友達、動詞では水がコン

コンと湧き出ること」の意味があると宗教主任の下田教授より教えていただきました。皆さんもこのような意味があることを記憶しておいて下さい。

さて、当時は英文科第二部があつたので昼と夜との学生による交歓会が六月四日（木）午後五時半より体育館で開かれていた。同じ短期大学の学生でも昼間と夜間と生活が異なるため顔を合わすことがないので毎年一回ないし二回の交歓会が趣向を変えて催され、先生方も加わり親睦の時を過ごしたものでした。

この年の四短大交歓会（香葉三号にてこの交歓会については説明済み）が六月六日の土曜日に開催されている。この時は本学が当番校で、家政科は既に六浦に移転していたので会場は六浦校地で行ったと記憶している。英語のスピーチに、演劇に、スポーツは庭球、卓球、バレー、それに今回は学校の前の入り海平湾湾でボート競争を加えることになり四ツの短大の親睦がより一層深められ楽しい一日となった。今はそのボートレースをした平湾も埋立てられ高級住宅地に変って当時の面影は少しもない。この時次回は恵泉女学院短大で行うことに決定している。

六月十一日にはタツピング先生ご夫妻の送

別会が開かれている。タツピング夫人は日本語が大変達者な方で女専から引き続いて短大の宗教教育に、英語教育に、また余暇を削いではりクリエーションクラブの指導にと熱心に奉仕されていた。女専・短大初期の学生には大変馴染深い先生であつたことでしょう。残念なことにご主人のコーヒー好きが原因で遂に病に冒されて帰国されることになってしまった。

前にも記したが当時は宗教活動が盛んで、この年も五月十三日（水）には「母の日」の特別礼拝が行われ、六月十六日（火）には「花の日」礼拝が持たれて、この日は放課後有志によつて病院や養老院、社会事業施設へ花束を携えて慰問に出かけている。宗教活動といえは英文科第二部では毎週土曜日の放課後聖書研究会が実施されていた。これは宣教師のニコルソン先生が指導に当たっていた。そして六月十九日（金）には昼間の学生と同様にギデオン協会より夜間の学生に対し聖書の奇贈があつてその贈呈式が行われている。

いよいよ長い夏の休暇に入る最終日、即ち七月一日（水）恒例の校内合唱コンクールが第一時限終了後直ちに午前十時より行われている。この年は英文科一年B組が最優秀賞に

選ばれている。そして九月六日(日)迄の夏の長い休みに入るのである。

前の第八号にも述べたように夏に行っていた修養会とキャンパは一つのものにして学校主催の行事として扱い夏期学校とすることに決定した。止むを得ず欠席しなくてはならぬ学生は、直接クラス担任にその理由を述べ理由書を提出することになった。これが現在まで続いているリトリートの始りだと思ふ。リトリートという名称に変わったのは翌年の九月三十日(木)の教授会に於て決定している。このときの夏期学校の乗はプリントされたものが今でも残っているが、そこに「……例年行われてきました修養会とキャンパを今年は統合して短期大学主催の夏期学校として挙行することになりました。霊峰富士の山麓、紺碧の湖畔に、心あえる友と過ごす三日間は必ずやあなた方の生活にプラスとなることを信じます。云々……」と書き出され、七月二日(木)より四日(土)にかけて山中湖旭ヶ丘の撫岳荘で行われている。プログラムの内容まで記すスペースがないので省略するが、相変らず米六合持参で宿泊費並びに旅費を含め一二〇〇円となっている。

続いて北海道旅行が実施されている。この

年が第一回でその後四十一年まで毎年夏に行われており、或る年などは人数の関係でフェリス女学院短大と共催で行ったこともあった。

日程は七月七日(火)から十五日(水)迄だが北海道まで足を延ばすのはこれが初めてだけに学生よりも学校側に不安があったようだ。付き添いは体育の門根先生(現捜真女学校教員)それに兵藤先生(現関東学院大学教授)と図書室勤務の時田房子さん(現香葉会会長古城さん)が参加した。私も出張を命ぜられたので仕事をほうり出して便乗した。その旅程のうち、印象に残っているものを記してみよう。先ず最初に驚いたことは、集合場所で巾二十五種位長さ六十五種位の板が交通交社の高木さんより各人一枚ずつ手渡されたことだ。何しろ今回のコースは阿寒湖、摩周湖、札幌、アイヌ部落、洞爺湖、登別、十和田湖と廻るのに道内二泊、十和田に一泊という計画で、車中で過ごすのが多く、列車内に於て各自の板を向かい合わせの座席に渡す(四枚並べる)ことにより少しでも旅が楽にできるようにと考えられたそうだ。板を並べた座席は足を延ばして楽々。と思いきや、阿寒迄の直行する車中二泊は並み大抵のものではなかった。その後の北海道旅行でもこんな強行な

スケジュールは一度もなかった。やっとのと青森に到着。ホームの長いのに学生はびつくり、そして連絡船への通路で、もう顎を出しているものもあった。いよいよ乗船が始る。

改札迄への長い列が続く、乗客の中に背負えるだけの米を背に、抱き込めるだけの米を胸にかかえ、前後の荷の重みのために、またてヨチヨチと歩いている間米のカツギ屋さんの一群が目をついた。船は洞爺丸(この船は翌年の秋台風で松前沖に流されて沈んだ)今の船と違い狭くて型も古い。そして殆んどがゴザ敷の板の間に座るかゴロ寝。それに我々の場所は船底という惨めな旅だ。甲板に出てみても先程のカツギ屋さん達の荷物で自由に歩くこともできない。「内地からのお客さんかね!」と声をかけられた学生は目を白黒させ「内地から……」と云われて遠い異国への旅と感じたのだろうか、ホームシックになって眼を赤くさせ潤んだ顔も見られた。つきない話題に笑い興じている大平楽な顔。洗面所で時計をはずして洗顔している間に時計がなくなつたとしよげている顔等。様々な顔を見せて船が進む。青函連絡船も今は三時間五十分位だが当時は五時間近くかかって函館に着岸する。再び列車で釧路迄の旅は続く。車中の

生活に飽きてくる。寝てばかりいるのも大儀だ。トランプやパズルは無論のこと、トランプを二つ並べて卓代りに麻雀も始めた。余程旅慣れた学生だ。ゲームに興じてくると時間過ぎるのが早い。列車の最後尾に近かったので明け方、午前五時半頃デッキに立つて流れ去る単線の軌道を眺めていると突然両側の堤が白一色に変わる、スズランの畑が続いているのだ。今でも強く印象に残っている。

やがて釧路の駅へ、ここからはバスで進む。道路は凹凸道が多くガイドさんはエクボ道路とか云っていたがエクボも一つ二つでは可愛いのかも知れないがこのような連続では甚だ迷惑だ。後年のオリンピック開催迄にはこの道路も舗装され、道南は何処も車が流れるようになった。途中双湖台で下車してペンケトー、ペンケトーを見下ろすと森と湖の美しいこと。やっと阿寒湖畔に出る。湖畔の宿も三、四軒と静かな雰囲気がいづししか我々が大自然の中に溶け込んでしまうようだ。おしい気もするが早く宿で一息いれたくもなる。阿寒湖荘へ着くと、ぐったりしていた学生はもうはしゃいで飛び廻っている。ひと風呂浴びて落ち着く。横浜を立つて初めて全員揃って食前の感謝を捧げることができた。疲れは何処へ

やら食事を取っている学生の顔は生き生きしている。部屋に落ちついてしばらくは兵藤先生と雑談を交したり絵はがきにペンを走らせていると、突然一階の風呂場の方より「キャー」という悲鳴が聞え、学生かな？先生と顔を見合せ時計を見ると二十三日二〇分だ。何かあったらしいと直ちに風呂場に駆け下りると、大きな岩風呂といった方が良いのか自然石を積み上げて造った浴槽に学生が六、七人湯面に首を浮かべて談笑していた。「今の悲鳴は君たちか、今、何時だと思うんだ」というようなことを云ったようだ。「先生、今男の人が数人入ってきたのでびっくりして、皆んなで大声を上げたんです、そしたら、慌てて出ていきました」平然と学生達の言葉が返ってきた。私もここで初めて道内の温泉場は殆んどが混浴だということを知った。学生も大きな浴槽につかりたい気持ちも解らんでもないが、方法を考えれば良いのにも思った。翌日湖上遊覧は云うに及ばずマリモにもお目にかかって再びバスの旅となる。昨夜は初めての宿だったので夜を徹して語り明かしたのかバスの中は静まりかえってガイドさんの説明が子守唄となって安眠している学生が多い。やがて「ここが摩周湖です」と云われても熊

笹の生い茂る小高い土手があるだけで何処に湖水があるのやら、その堤の上に立つまでは実感が沸かなかつた。第一展望台がこの辺りで、第三展望台があの高い木が見えますあの下辺りだと思えます。とガイドさんも確信のない説明だった。一同下車して熊笹の生い茂る土手を大きな笹の葉を分けながら上って行く。堤の上に着くと遙か下の方に藍色の湖面が目に入った。立っていると湖底深く吸い込まれていくようである。湖面を流れる冷たい空気が吹き上げてきて足元を通り抜ける。その静寂なこと、神のいる島と名付けられた小島が湖の真ん中であってその近くに小さな雲が浮かんでいる。景色全体が実に神秘的だ。このようにして全体が見えるのは年に何回か数える程で常に湖上は雲が霧が広がって見えないとのことだ。(ところが何年か後に訪れてがっかりした。堤は切り開かれ第一、第三両展望台も鉄筋コンクリート造りになっていて、その近くにはみやげ物屋もでき、アイヌの衣裳をつけた店員がバスから降りる人人に呼びかけていた。あの実に神秘的な印象深い自然の味は何処かへ消え失せていた。)

(つづく)

# コイヨースポットライト

## 消 息

高橋 静子



ふうーっと軽い吐息を漏らしながら、私は離陸直後の急上昇しつづめるマレーシア航空ボーイング707の座席の背凭れに、全身のけだるさを預ける様に寄りかかり、機外のんだんと薄れゆく雲の切れ目から覗

き始めた青い広がり唯何となく、ぼんやりと追い掛けていた。

一九七九年七月一三日金曜日午前一〇時。成田に多大の犠牲を払って開港された新東京国際空港から独り機上の人となったばかり、何年振りであろうか、久し振りの外国旅行であった。窓寄りの座席に深く身を沈め、絶え間なく行き交う時の刻みにも無頓着に何者にも束縛されない自由を満喫して居た。私にとっては、稀にしか恵まれない最高の贅沢であった。日本脱出と云うよりも、単調で新鮮味のすっきり感じられなくなったオフィスの仕事からやっと解放され、ほっとして居た私には、外国旅行に出かける人々が往々にして抱くロマンスティックな夢や、華やかな興奮も覚えなければ、これから訪れようとして居る未知の国へと馳せ翔ける好奇心や憧れも湧かず、かと云って独り旅の心許なさとても感じられなかった。

「冴子さん、御元氣？」 私は窓外の雲一つない平和そのもの、

静謐な青空へあらゆる緊張から解き放たれて語りかけた。「シंगाポールなんかと思つて居たけれど、貴方からの再々のお誘いと、嘗てキャセイ航空でスチュワーデスをなさつて居られて外国、特に東南アジアの国々に明るいオフィスの友人のそれはそれは熱心な勧めに動かされ、とうとう腰を上げました。幸にもボスが休暇をとり家族を連れて一ヶ月の中国旅行に旅立つてしまつたので、私も安心して出て来られました。でも休暇願ひを出した時、自分の居ない時に留守をしっかり見てくれる人が必要であり、それこそ秘書の役目ではないのかと問われ、一瞬戸惑いましたけど、又、人の悪い冗談を云つて居ると思い無視して出て来てしまいました。彼は何時休んでも、病気で休むのでない限り、文句を云いますのよ。ですから、居ない時に同時に休暇をとつた方が同僚にかかる迷惑がより少なくて済みますので、文句もストレス解消の為の戯言と聞き流してしまいました。ここが宮仕えのつらさ。気になさらないでね。帰つて来れば又仕事仕事であくせくするのですから。」

冴子さんは短大で机を並べて学んだ旧友であり親友でもある。卒業後彼女は洋裁学校へ、私は横浜YMC Aの料理クラスへ通つてお互いに平凡な結婚をしようとお稽古に励んで居た。その内彼女は理想の男性に廻り合い、幸福な結婚生活に入られた。その時の彼、即ち現在の御主人は日本の代表的貿易商社の一つである丸紅のシンガポール支店長である。お二人にはピアノを上手に弾き、英会話に堪能で聡明快活な愛らしいお嬢様が恵まれて居る。シンガポールに家族共々赴任なされてもう四年になろうか。一方、お料理を習いながらYMC Aで初級英語のクラスを受持たせて載いた私は、一週間

に僅か数時間だったが、教えると云う貴重な体験を積む事が出来た。母の勧めで京浜急行の日の出町駅に隣接して建つ山手英学院で英文タイフと英文速記を習い始めたのも此の頃であった。別に特別な目的があったわけではないが、職業婦人となってしまった現在の私を予測していたのかもしれない。タイフも速記も一応卒業出来た頃、幸運にも米国籍の石油会社へ入社する事が出来、お料理や英語講師のアルバイトは断念せざるを得なかったが、スタンダードウェアキユームオイルカンパニーで、その道のベテランや二世の間で揉まれて六年余り、冴子さんが主婦業に専念し育児に追われて居られた時期に私は技術の修得と錬磨に懸命であった。仕事に新しい分野を求めてオーストラリア大使館へ転職したのが一九五九年の秋。今年で何年目かな——と数えかけて思わず背筋に冷水が流れる様な感触を覚えた。専門に勉強した学問の生かせる職業に就けた事は此の上なく幸運であった。然し一夜漬けの通用しない会社で実力の不足を嫌でも認識させられ、首になつたらどうしようと思つて不安から（この純情さは今ではとてもなつかしい）もういらなと思つて片付けてしまった文法や英作文の教科書を捜し出して来て初めから読み直してみたり、ああ、もう少し真面目に勉強して居ればよかつたと後悔してみたりしたものだ。思い出に生きる程まだ年老いたとは考えたくないが、老眼鏡に頼り、食事も塩分の量に気を配り、木やスチールで出来た長い棒を振り廻しながら、芝を痛めぬ様に底に釘の付いた靴をはいて、てくてく歩き廻る運動を必要とする年頃に辿り着いた事は事実なのだ。短期大学制度が発足して今年で三〇周年を迎えると何う。第一回目の卒業生として多くの人々の期待と関心を担つて社会へ送り出された私達が、個人差はあつても、それぞれに与

えられた環境で、受けた教育の成果をどの程度に發揮し社会に貢献出来たかどうかは専門家の御意見と御判断にお任せするとしても、三〇年前三春台の講堂で毎日かかさず唱和した讚美歌のあの流麗な響き赦そかな調べ、そして「人になれ。奉仕せよ。」と折に触れて悟された教訓はこの長い歳月に幾度も心に甦り、新鮮な気持ちに立ち返る寄り所となり糧となつて、日々の生活を潤し光を導いてくれた事実を感謝したい。

芳香に薫るシンガポール空港へ降り立った時、東京と気温の差が殆どないのはほつとした。

以前真冬に盛夏の国ハワイへ旅行し、帰国後ひどい風邪を引き苦しんだ経験がある。急いで入国手続きを済ませ、小銭を用意してタクシー乗場へ向う。税関から出て来る旅行者を明白押しに並んで出迎える人々の中に、何気なく視線を感じ振り返ってみると、再会の喜びの蔭に女性の独り旅を氣遣つてか僅かに憂いを帯びた優しい笑顔に出会つた。なつかしい顔。冴子さん。心配しないでとあれ程云つたのに！

色黒の柔和な顔立ちをした現地人運転手が運転する冴子さん用のグリーンのフォードは、喜びにはずむ心からほと走り出るおしゃべり、何時つきるとも知れぬおしゃべりに酔う全く別の道を歩んで来た二人を乗せて、オーキッドやアーゲンピリヤが咲き乱れる清潔な町シンガポールへ一筋にすべり込んで行つた。 短英二十七卒

## 筆者紹介

オーストラリア大使館勤務

# 展望



前回と同じく、先生方に原稿をいただいたり、インタビューして質問にお答えいただきました。また、他に先生方にお尋ねしたいことがありましたら、是非、編集委員宛御連絡下さい。

質問 1 あなたの人生に大きな影響を与えた人あるいは言葉とその理由。

質問 2 青春あるいは学生時代の思い出を一つあげて下さい。

質問 3 余暇をどのように過ごしていらつしやいますか。

質問 4 好きな食物と嫌いな食物は何ですか。その理由は。

質問 5 先生の現在の研究テーマは何ですか。



一般教育助教授 山下輝彦

1 私生活の面では、両親からもの考え方の根本的な理念を学びました。特に、父親より母親に厳しく慕われ、他人に迷惑をかけるな、権利を主張する前に義務を果しなさい、ということを教えられました。

2 苦しみと楽しさは紙一重で、そう考えますと国家資格に挑戦していた頃だと思えます。取るまでは国家資格に対して無限の可能性があるような気がしていました。

学生時代は、図書館に通い、思う存分やりたいものをやっていました。

3 現在はあまり余暇がありませんが、今までは暇があればできるだけ両親のもとに帰っていました。年に五回ぐらい帰っていた時もあります。読書は何を読んでも、最後には六法全書を開いていたりにして余暇にはなりませんね。音楽はむくなりませんし……。

4 好きな食物は卵で、鉛筆でも包丁でもあればコンコンと穴をあけて吸ってしまいうくらいです。一日に十個も食べたことがあります、それが原因で眼が悪くなったんですけれど、嫌いな食物は鶏肉で、味が淡白なことです。まあ、ニワトリが先か、卵が先かといったところでですね。

5 民法第五編相続の一番最後にある遺留分の減殺です。これは遺言により遺産を家族に全額与えないようにしても、法の力で半分まで取り返すことができるということです。しかし、自由主義社会の中で、



血縁者という理由だけで取り返せるというのをおかしいのではないかと考えています。大学時代より研究をしているのですが、なかなか結論のでる問題ではありませぬ。

### 幼児教育科講師 犬木 瑛子



1 以前卒業アルバムにも載せた言葉なのですが「今日成しうることに全力を尽くせ」という言葉が好きです。その時々に分け与えられた仕事なり何かに誠意を尽くして一生懸命やっていきたいと思っています。

2 学生時代にベートーヴェンの第九を歌ったときのことです。この頃ちょうど、かかとの細いハイヒールが流行していて、合唱団でそれをはいて歌ったのですが、全曲を歌うと一時間近くかかり、その間中じっと立っていたので、幕がおりたとたん足の痛さを感じ動けなくなっていました。

1 ケネディ大統領。洗練された知性と苦難に立ち向かう勇気を持ち、高い理想を追い続けたその激しく短い生涯に深い感動を覚えたからです。

2 高校時代に冬のマラソン大会で親友を失ってしまったことです。一緒に外大へ進むことを約束し合っていたので大きなショックでした。大学院時代では、青山学院のキャンパスでまさに才色兼備のお嬢さん方と一緒に授業を学び、共に語り合い、デートする機会に恵まれたのが懐しい思い出です。

3 中学の時から町の道場に通い、高校時代は親友といっしょに柔道部に入っていました。親友を失ってからはテニスに変わりました。(質問・今はもう柔道をなさらないのですか?)今はやりませんが、野球と並んでテレビなどで試合を見るのは好きです。テニスは今も白球を追って汗を流しています。また好きな外国映画を見ることも趣味のひとつです。

4 好きな食物はステーキ(ウエルゲン)、四季のフルーツ。若いから多くの動物性タンパク質が必要なんじゃないでしょうか。嫌いな食物は特にありません。今のお子

5 私は「リトミック」を専門に研究しています。子供の様子をビデオに撮り分析してみ、子供の発達段階を考えた上で、子供達にいろいろな速さ、音を聞かせたなどのような動きをするかを調べることによつて、子供達にとつて良いリトミックの指導ができたかと考えています。

### 英文科講師 蔭山 友行



4 好きな食物はステーキ(ウエルゲン)、四季のフルーツ。若いから多くの動物性タンパク質が必要なんじゃないでしょうか。嫌いな食物は特にありません。今のお子



幼児教育科教授 瓜 巢 憲 三

5

さん達と比べたら偏食はなかったですよ。祖母のしつけがきびしかったので……。時代の最先端を行く、世界の鼓動を英語で伝える *Time* や *Newsweek*、また新しい映画に見られる現代英語の語法の研究と、最近はコミュニケーションの問題にも興味をもっています。

質問1 あなたの人生に大きな影響を与えた人あるいは言葉とその理由。

質問2 先生の生活信条とは何ですか。その理由は。

質問3 今の学生に望むことは何ですか。

質問4 先生の現在の研究テーマは何ですか。

質問5 もし動物に生まれ変われるとしたら何になりたいですか。

1 人間の形成という点からみれば、私の母でしょう。が、私の将来を方向づけてくれたものは、次の子供たちでした。

ひとつは、昭和十三年ころから約三ヶ年ほど、いわゆるボランティアとして世話した虐待児の収容施設の子供たち。さらに、その後住み込みボランティアとして教えたセツルメントの夜間中学の子供たち。前者は東京の西荻窪、後者は日暮里のスラム街にあった。よくなつてくれた虐待児たち、一生懸命に学ぼうとしていた貧困家庭児たち。いつしか私は彼らと離れられない関係になり、やがて私は、何の疑いもなく児童福祉家としての道を歩むようになったのです。

2 どんな人間に対しても同じような態度でのぞむことの出来る人間、つまりいかなる人間をも手段視してはならないということが、いつしか私の生活における基本な考え方みたいなものになってしまったようです。

3 特に望むことはない。しかし、最近だれにでも言いたくてならないのは、それだけが相手の立場にたてる人間であつてほしい、ということです。

4 ある機関から委託された研究テーマが「父子関係の論理」。『父なき社会』とか『父親不在』といわれている現代社会の父子関係を、既存の研究調査資料によって検討し、子供の発達にとつてあるべき父子関係の論理をまとめてみたい。

5 やはり人間だよ。特に人間に魅力あるわけではないんですが、他の動物は、いずれも人間に支配されて生きつづけなければならぬんだから……。

家政科助教授 和田 淑子



1 高等学校以降は、学校の恩師の影響が大きかったです。私たちの時代は、女子がわざわざ家を離れて大学へ行くのは少なかった頃ですが、そんな道を選んだのも、今考えると、高等学校の先生の力添えがかなりあったから……。それ以降、今日まで人生の先輩として尊敬する師に恵まれ、色々と教えられてきたことが、自分

に影響があったように思えます。

2 その日、その時、すなわち今、自分が直面している事柄に対して、自分なりにベストを尽くすということかしら。

3 現代っ子というのは、昔に比べて自分をはっきり主張できる点があるけれども、

これは自分の思い通りに物事をすると、かわがままを通すというのではなく、自分を大切にしていくということで、主体的に生きるのだと思うんです。その為には、思慮深さとか、決断力が必要になってくるわけです。それをできるだけ内面に蓄積するように、そして、内面を磨いていくように努力して欲しいということなんです。主張するということに対して、履き違えないようにして欲しいですね。

4 食べものの味やおいしさと、食品の持っている物理的性質、いわゆる物性とのかわりについて、興味を持っています。

味というものが、とかく、甘いとか、くらいとかに左右されるようだけれど、実際はテクスチャーの面とのかかわりが大きいですね。そのへんの研究が調理ではおこなれているように思い、お菓子を中心に手がけています。

5 やはり人間でいたい。そして、せつかく生まれかわれるのなら男性として、男性の世界で生きてみたい。

### 国文科講師 千葉義孝



1 小学校の先生と大学の先生の二人です。

小学校の時は、三年生ぐらいまではいわゆる学校嫌いで、庭で蟻やとかげを筆箱に入れて遊び、学校に行かない日もありました。そのような中で、心の広い先生にお世話になり、四年生からは楽しく学校に行けるようになりました。大学一年の時は、経済学部在籍していましたが、担任が国文の先生で、その授業がとても印象的でした。文学を文学として味わい、文学とはどういうものであるかを知ることができ、国文学の魅力にとりつかれ、二年の時に転部しました。場当たり主義で、大それたことはお話しできませんが、平凡であるかもしれないけ

れども、健康であることにつきるんじゃないかな。小さい頃、肺炎で死ぬか生きるかの思いをしたことがあるので、健康のありがたさを非常に感じます。それだから、スポーツをする”ということですかね。同時に心の健康も大切ですね。

3

働くことは、卒業したらいつでもできるのだから、アルバイトなどは極力避けて、クラブ活動などに積極的に入って、夢中になってやったらいいんじゃないかな。生の人間関係の中で、自分をまるごとぶつけて、素直に話し、つらい事も楽しい事も一緒に理解しあっているのではないだろうか。夢中になって何かをするということは、青春の証であると思います。

4

現在は、恋の歌をやりたいと思います。古今集の恋の歌は、古典を理解する為にも必要だと思えます。人間の微妙な感情の裏をつかむのは、歌のむずかしいところですが、挑戦してみたい！

5

蝶になりたい。美しいでしょう。空を飛べるでしょう。蝶の、あの痛々しい飛び方がいいですね。太陽の光を浴びて、美しい花のもとに集まってくる、そういう蝶に憧れますね。

# こんには

## A B C 英文科 A B C

五十四年二月に英文科も室の木へ移り、最新の機材、教材をそろえてスタートしたのを、学報などでお読みになって皆様も御存知の事と思います。えっ？ まだよく知らない方もいらっしゃる？ そうですね。では、そういう方々の為に、最初に、最近の英文科のお話をいたしましょう。

まず、L.教室は、54ブースある部屋が二つ、80ブースのヒアリングルームが一つ、そしてテレビは各室4台ずつあるのですよ。演習の時間には、「ミングウェイの「武器よさらば」やモームの「雨」などをVTR化した物が使用されています。また、これからは「二カ国語放送の時代。心に残るいい場面、いいセリフを生英語で聞いて、英語を楽しみながら理解しようと、テレビから録画した教材もいろいろ使用されています。「ローマの休日」、「風と共に去りぬ」、「ミセス・コロンボ」、「奥様は魔女」、「セサミ・ストリート」、「テレビ英会話」など。そして、時事英語では、「キッシンジャーは語る」、「E・ケネディは語る」のような政治的な物が使われています。みずみずしいヘップバーンの「ローマの休日」や、かわいいタバサちゃんが出てくる「奥様は魔女」は学生の人気ナンバー1で、みんなもちろんあくびなどほしないで、見入っています。テレビもさることながら、英米文学史では黒板いっぱいになってくるスクリー

ンに、「16ミリの「English History」を写し、とても迫力がありました。耳だけでなく、目からもという、文字通り、視聴覚が効果的に、使われつつあります。

ネイティブ・スピーカーとの接触も、英会話の時間の他、L. L.では木・金曜日に、ミセス・ブラックウェルに発音を一人一人ていねいに直していただいています。とてもバイタリティーのあるハッセル先生です。聖書をやさしい英語で理解するバイブルリーディングの時間もあります。ミセス・スウィージーがドラマチックにパイプルの講義をしておられ、学生もうっとり。先生の一人多役の演技に、みんな引き込まれていきます。

また、実用英語検定試験を、短大で準会場として実施するようになってからは、毎回多数受験するようになりました。やはり自分の学校だと気分的に落ち着いて受けられるということなのでしょう。どうですか？ なんだかしばらく英語を離れていた方も昔を思い出して、もう一度英語を習得してみたくありませんか？ 生活に張りが出てくるかもしれませんよ。英文の本でも読んでみたくなつた方に、このような本はいかがでしょうか。The Final Diagnosis(著者 Arthur Hailey 出版社 Bantam Books)これは、病院の内部の人間関係やロマンスを扱った物で、日本では翻案されテレビ化されました。The Managerial Woman(著者 Margaret Henning, Ann Jardim 出版社 Anchor Press)は、将来女の子を自立した職業人として育てたいと考える人達にいろいろな示唆を与えてくれる本です。この日本語版は、サイマル出版から、「キャリア・ウーマン」という名で出ています。童話の好きな方には「The Giant All-

color Book of Fairy Tales(出版社 The Hamlyn Publishing

Group Ltd.)はいかがでしょうか。やさしく書き直したグリム、アンデルセン童話、アラビアンナイト等の有名なストーリーが51も載っています。中学生や小学生を教えている方は、副教材にも良いと思います。

では、お暇がありましたら、一度英文科を見学いらしてください。

## 幼児教育科

幼児教育科は今年8回生の学生を迎えました。現在49科目の授業が開設されていますが、設置当初に比べますと「福祉内容総論」という科目が増えました。講義はほとんど、幼児が成長発達の途上にあることを知り、その段階にふさわしいものや促すものを与えるという方針ですすめられています。では、どんな授業が行なわれているのかのぞいてみましょう。

「美術工芸」「視聴覚教育」では、紙のおすもうさん、かぐや姫、おひなさま、ペープサート、パクちゃん、パネルシアター、クリスマスのお天使、サンタさんの手さげ袋、トンボ、指人形など季節や行事にあわせて製作をしています。

「体育」では、マット運動、鬼ごっこ、縄遊び、鉄棒遊び、フックダンスなどがあり、縄は、電車ごっこや床に置いて鬼ごっこに使ったり、結び目を子どもに持たせて、非常時等の引率に利用することも学びます。幼児用の鉄棒で逆上がりをしたり、補助の仕方を学びますが、これがなかなか低くてむずかしいのです。他に、功技台と呼ばれる梯子、跳び箱、鉄棒、滑り台をいろいろ組み合わせ

られるものがあり遊び方の研究をします。

「音楽」では、声楽と音楽の基礎的な理論を学びます。51年よりミュージックラボラトリー（M・L）が入り、伴奏法などきめ細かく指導されていますが、学生の間では、いつあてられるかわからないので、恐怖のM・Lと呼ばれているようです。毎年1月第3水曜日に幼児教育科音楽発表会が開かれており、入学して初めてピアノを弾いた学生も驚く程上手に演奏します。最近では、器楽合奏もあり幅の広い発表会に成長しつつあります。

「児童文学Ⅱ」では、1年次での児童文学の基礎的な知識をふまえた上で、毎時間、学生による絵本の朗読と研究がなされています。卒業作品とも言うべき学生のオリジナルな絵本は、原稿からさし絵まで自分で装丁します。中には、ため息の出るような美しい色彩のものや、つい手にとってみたくなるようなかわいものもあります。「小児栄養Ⅱ」では、「小児栄養Ⅰ」で幼児期の必要な栄養と意義を学んだ上で実際に調理をします。調乳、離乳食、おやつ、お弁当など味つけが薄く、最近は特に塩分を控えなければならぬことを知ります。そして、幼児の食事が成長にあわせて栄養素を摂取すると共に、いかに楽しく、おいしく食べられるかを与える側として学んでいきます。

さて、これらの授業を学んだ学生は、「教育実習」（幼稚園）や「保育実習」（保育所と児童福祉施設）に行き、実際の保育を知ります。実習後、精神的に非常に成長します。尚、本科では教育と福祉の統合が進められており、卒業後、児童福祉施設に勤めていらっしゃる方も大変増えてきました。他にも多くの科目がありますが、幼児教育科の風景が少しでも卒業生の皆様の眼に浮かべば幸いです。

# 五十四年度

## 総会報告

### 鳥越先生定年記念

#### 感謝会をかねて

恒例の短大同窓会（香葉会）の定期総会が例年のように六月の最終日曜日、二十四日に開かれました。従来会場はホテルが多かったのですが、今年は短大が室の木校地（ハンソン山跡地）に全面移転をしましたので、気分も新たに新しい校舎で行ないました。

一号館（家政科館）二階教室で第一部の礼拝と総会を、一階ホールで第二部の鳥越先生定年記念感謝会を行ないました。好天気に恵まれ、冷房のない校舎でしたが、時々吹く風が肌心地よく感じられました。

林学長をはじめとして二十二名の教職員の方々と七十七名の卒業生、合計九十九名が集まりました。

プログラムに沿って第一部、第二部と進み感謝会では定年を思わせない鳥越先生の若さに、会場のあちこちから驚きと羨望のためいきが聞こえ、にぎやかな一時でした。

会場には子育て真最中のお母様方がお子さんをつれて一緒に楽しんでいらしたようです。全国の卒業生からお送りいただきました鳥越先生への記念品代は総額で拾七万円を越し先生には真珠のブローチ、鎌倉彫飾り盆と金一封をさしあげました。お寄せくださいました方々へご報告いたしますと共に深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、この会の準備に助力くださいました短大職員の方々、香葉会会長はじめ役員の方々、本当にありがとうございます。（江口記）



#### 第一部

総司会 光畑 清

礼拝 司会 田中 啓子

前奏

讚美歌 312

祈禱

讚美歌 122

黙禱

後奏

会長挨拶 司会 古城 房子

総会 司会 江口 和子

事業報告

会計報告

新年度事業計画案

新年度予算案

その他

第二部 司会 相吉 典子

学長挨拶

家政科長挨拶

スピーチ

記念品・花束贈呈

鳥越先生挨拶

## 「香葉」10号 特別記念号

### についてお願い

今年は短大が設立されて丁度30周年になります。又、同窓会は、大学同窓会「燦葉会」の短大支部であった前身から独立して「香葉会」を作ってから満10年を迎えました。次回発行の「香葉」は、この10年の歩みを記念して「特別号」として皆様にお届けする予定です。つきましては支部時代の思い出、香葉発足当時の苦労話など、同窓会の歴史にもその時々にご活躍下さった方達の体験談がおりと思います。

又、同窓会に限らず学校時代の思い出、現在の体験、感想、何でも結構ですが、どしどし投稿して下さい。記念号を作ることに参加して載せたく、ご協力をお願いします。ハガキ、便箋でお書き下さっても結構です。

尚、編集の都合上、8月30日までに御連絡載けると幸いです。

原稿期限 55年10月30日〆切

送り先 〒236 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 784-1491

関東学院女子短期大学内

香葉編集委員宛

### 合同同窓会報告

前号では、合同同窓会の構成について説明しましたが、今回は会計についてお話しします。合同同窓会の会計は、新年度卒業生一人につき一三〇〇円を会費として納めています。その内一〇〇円は基本金として積立て、二〇〇円は運営費として使われます。名簿発行とか全体の総会等は現段階ではできませんので各会の活動を援助する名目で残りの一〇〇〇円は払い戻しの形で支給されます。さて現在合同同窓会では会則変更の審議が進行中です。各同窓会を代表した委員で構成された幹事会が検討中ですが、一番重要と思われる名称で全員の意見の一致がないまま審議が進まない状態です。旧会則では「関東学院同窓会会則」という名称を「関東学院同窓会連絡協議会会則」に変更する案が出されましたが、名称はあくまでも「同窓会」としたい、という意見に対し、大学「燦葉会」は「連絡協議会」を主張して妥協点が見つからないまま現在に至っています。香葉会としては何回か委員会で討議を重ね、意見をまとめて出しておりますが、学院全体の事業を行う時、又対社会的にも学院全体をまとめる組織として作られた最

(次ページへつづく)

## 関東学院女子短期大学 香 葉 会

昭 和 53 年 度 決 算				54 年 度 予 算	
収 入 の 部	予 算	決 算	増 減	収 入 の 部	
会 費 @3,600×2 @4,000×612	2,455,200	2,455,200	0	会 費 @4,000×677	2,708,000
合同援助金 @1,000×614	614,000	614,000	0	合同援助金 @1,000×677	677,000
賛 助 金 (187名)	50,000	242,625	192,625	賛 助 金	50,000
委 託 販 売 手 数 料	200,000	958,385	758,385	委 託 販 売 手 数 料	500,000
寄 附	—	10,000	10,000		
預 金 利 息	15,000	15,763	763	預 金 利 息	15,000
前 年 度 繰 越 金	479,413	484,644	5,231	前 年 度 繰 越 金	2,374,267
合 計	3,813,613	4,780,617	967,004	合 計	6,324,267
支 出 の 部	予 算	決 算	増 減	支 出 の 部	
事 業 費	700,000	348,070	351,930	事 業 費	1,200,000
総 会 費	450,000	178,927	271,073	総 会 費	900,000
通 信 費	200,000	151,308	48,692	通 信 費	500,000
交 通 費	100,000	17,490	82,510	交 通 費	100,000
事 務 印 刷 費	70,000	17,490	52,510	事 務 印 刷 費	70,000
事 務 委 託 費	100,000	170,575	△ 70,575	事 務 委 託 費	300,000
新 入 会 員 欲 迎 費	300,000	300,000	0	新 入 会 員 欲 迎 費	400,000
雑 子 備 費	160,000	22,540	137,460	雑 子 備 費	500,000
合 同 分 担 金 @1,300×614	185,413	145,000	40,413	合 同 分 担 金 @1,300×677	374,167
基 本 金 繰 出 金	150,000	56,750	93,250	基 本 金 繰 出 金	300,000
次 年 度 繰 越 金 (名簿発行準備金)	798,200	798,200	0	香 葉 発 行 準 備 金	500,000
	200,000	200,000	0		
	400,000	2,374,267	△ 1,974,267		
合 計	3,813,613	4,780,617	△967,004	合 計	6,324,267

初(め)の趣旨が失われないよう「同窓会」という名称を推しています。一方、連絡協議会を主張する理由は何の活動も行なっていない合同同窓会に各同窓会の新会員(新卒業生)数にみあった会費を拠出する不公平と、各同窓会が多数の会員を抱える現状では、全体の合同同窓会活動は不可能である等です。確かにその通りですが、各同窓会が大きくなければなる程ばらばらに孤立したものになる可能性も大きく、単なる連絡協議会では、主体は各会になるので全体として決めたいことも気に入らなければ拒否できるし協力しなくても良いという状況になる恐れが充分にあり、又各会を代表して出ている幹事は決定事項の議決権がないという事態も起こりそうです。同窓会は学校があつて成り立つものですから、学校側の意向を充分伺つて、学校の発展を援助し密着した協力体制をとつていく為に全員が納得できる会則を作り、同窓会相互の親睦が図れる会に育つよう努力してまいります。

(古城記)



# 賛助金をご寄付

## 下さった方への

### お礼とお願い

第六号の「香葉」から、賛助金のお願いをしまいにしましたが、今年も後記の方々から総額「二十万三十二円」をお送り頂き、厚く御礼申し上げます。諸物価の値上げにより、今年「香葉」の発行がむずかしくなりました。また、卒業生唯一の雑誌をなくしたくないと、編集委員一同がんばっておりますので、今後共賛助金の御協力をよろしくお願い致します。

#### 五十四年度賛助金寄付者（敬称略）

千田節男、菊地和子、齋田実子、徐多恵子、菅野明美、出栄美子、高山政子、森田いく子、納所節子、小峰節子、石井英子、横山美和子、金原幸江、細田昌子、芦川裕子、小島絵理子、田代司、伊東栄、芝文枝、原弘子、中江雅子、吉川和子、三浦裕子、神山孝子、樋渡アキ子、齋藤道子、稲益朱美、鈴木照子、東井櫻梢子、長井恭子、田村園子、金子貞子、小林三枝子、中川あや、西瀧京子、秋山悦子、浅田美弥子

児島和美、志賀ミチ、太田正道、福田しほり、原嶋曜子、米村昭子、清水輝子、高久真里子、西村幸子、山本弘子、和泉マヤ、上野百合子、飯田洋子、星野昌子、松上尊代、佐藤葉師子、田野史子、川口靖子、脇出和子、佐藤千代子、足立求子、飯島敏子、小松照代、久保石暉子、土山忠、須田広子、鈴木弥英子、市山久美子、稲垣愛子、増沢由美、小野和子、曾我紀美江、山田正江、畑中頼子、倉石和恵、浅倉美佐子、柳川礼子、長島百代、田中晴子、鈴木恵美子、重田和子、依田仁子、大塚則子、青木千恵子、稲葉千草、古城房子、石田積子、長谷川絢子、光畑清、松岡梅子、森田吉世江、八木智恵子、西松恵子、田中紀子、村岡愛子、次藤恵美子、笹田洋子、江口和子、齋藤節子、中石みどり、中村悦子、釜尾愛子、益川良子、武居小夜子、保科恭子、齋藤比子、鈴木悦子、錦織マサ子、中川道子、玉木宮子、海老沢さよ子、谷洋子、鈴木紀子、吉田年江、渡辺順子、坂井美久子、池田宏美、永田裕子、矢田宏子、五十嵐亮子、増田夫佐、高橋秀子、河村順子、細井芙美代、藤村千恵、亀井博子、佐藤信子、ウエア星子、福田尚志、杉田治美、小野寺とも子、林明美、鶴見智子、高橋玲子、有賀佳子、高橋みどり、塚本令子、本田道子、松川光代、霜島三枝子

小島純子、細野清美、新井元子、稲葉みどり、青木武志、折地俊子、月輪博子、粟田美智子、田川正子、佐野宣子、友尻裕子、高齋秀代子、大石豊子、中田益代、中村美雷、中村はるみ、田中久恵、溝口泉、肆矢三佐子、中野みはる、小山章子、寺内雅子、佐藤晶美、根岸智恵子、竹之内泉、土屋幸枝、伊藤陽子、山崎由紀子、本田憲代、山田洋子、清水鈴子、大木由紀子、渡部真枝、新島宏子、澄谷亮子、田中寿美子、小松綾子、今城良子、海野羊子、飯村富士子、金成京子、西川圭子、大谷昌子、高野由美子、佐藤貴美、朱雀涼子、長尾和子、石田不二子、松本信子、鳥井嘉江、君島瑠美、岩木由紀子、石倉富子、山下美江、地主敏子、外川富美子、田辺邦子、瀬名偏代、金田晴美、富沢眞喜子、飯吉玲子、小山田美由紀、鈴木恵子

（以上二〇〇名）

## 香葉会の部屋

### のご利用を！

一頁のグラビアで、ご紹介しましたが、香葉会の部屋に迎接セットを入れ、茶器の用意も致しました。ご用で学校へいらした時のお休み場所に、十人位の会合に、ご自由に、ご利用下さい。鍵は庶務課に預けてありますのでご使用の際は庶務課にお声をかけて下さい。



## 編集後記

前回に比べ、時間をかけて作り上げた香葉9号はいかがでしょうか？

編集委員は学内の職員で2年任期の半数改選のかたちをとり、皆、畑違いとは言いますが、新鮮で興味のある企画をと、日夜励んでおります。今回は5名で、昨年7月より今年5月まで、毎月1回ないし2、3回編集委員会を開いておりました。昼食をとりながら熱心に話し合ったおかげで、コミュニケーションも実にスムーズにいったよりに思われます。また、卒業生の方々より御意見や励ましのお手紙等を頂き、編集委員一同大変喜んでいます。

「展望」では、先生方にインタビューすることで授業と一味違った側面を知り、とても勉強になりました。

さて、次号は香葉会発足10年の記念号です。同窓会の様子や、お便り等を盛りだくさんにして、皆様のお手元にお届けしたいと思っておりますので御期待下さい！

学報で御存知かもしれませんが、昨年、総会の時に美しかった中庭の芝生は、現在、3号館横に教室棟が建築中のため半分ぐらいな

くなくなってしまいました。工事は秋頃完成ですが、また緑の美しい庭になるのは来春になるようです。その時は、是非、香葉会の部屋を含めお立寄り下さい。お待ち申し上げております。



写真右より

石 毛  
小 堀  
市 野  
仲 戸 川  
石



KANTO GAKUIN WOMEN'S JUNIOR COLLEGE



### 後輩へ就職求人をも!

本学卒業生の就職については、卒業生の実績が実を結び、毎年卒業予定者の2～3倍に達する求人があり、各科共百パーセントに近い成績をあげています。しかし、地方出身者に関しては、短大卒業生を受け入れる職場が少ないのです。そこで、高校卒業生に比較し、対人応待等に優れ、即、戦力化し易い短大卒業生、皆様の後輩採用を、皆様及び皆様のご主人に是非、ご検討いただきたいのです。

短大生ご採用のお話しがございましたら、下記学生課就職係迄、ご連絡いただきますように、お願い申し上げます。

〒236 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 784-1491 内226・258

関東学院女子短期大学学生課就職係

## 香葉第9号

昭和55年5月30日 印刷・発行

関東学院同窓会・香葉会

代表者 古城房子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236

関東学院女子短期大学内

電話《横浜045》784-1491 (代表)

關東學院同窓會・香葉會誌